

令和6年5月14日

各県教育委員会教育長様  
各市町村教育委員会教育長様  
各小中学校長様  
教育関係者様

四国地区公立小・中学校事務職員研究会  
会長 横手 香織

## 第25回四国地区公立小中学校事務研究大会 (香川大会)の開催について(依頼)

新緑の候、貴職におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日ごろから本会の活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、標記の会を、開催要項のとおり開催することになりました。

つきましては、研究大会を実りあるものにしたいと存じますので、貴所属職員の参加につきまして格別のご配慮をいただきますようお願い申し上げます。

また、公務ご多用とは存じますが、教育関係者の皆様に多数ご参加いただきご提言ご指導をいただけますようご案内申し上げます。

# 第25回四国地区公立小中学校事務研究大会(香川大会) 開催要項

## 1 大会テーマ

多様性の時代に応える学校事務とヒューマンリソース  
ー立ち止まることなく、何ができるかを探るー

## 2 目的

多様性の時代に応えられるよう、学校は変化を求められている。私たちがそうした学校の現状に貢献していくためには、学校事務には何ができるのかを考え、学校事務の在り方もまた柔軟に変化していく必要がある。そのためには多角的な視点で物事をとらえることができる組織運営やリソースマネジメントが重要であると考え。そこで今大会では、多様性を尊重し、子どもたち一人一人の未来の可能性を広げる学校事務・共同学校事務室等のこれからの姿を追求することを目的とする。

## 3 主催

四国地区公立小・中学校事務職員研究会

## 4 主管

香川県公立小中学校事務職員協会

## 5 後援

文部科学省(予定)  
香川県教育委員会 愛媛県教育委員会 徳島県教育委員会 高知県教育委員会  
高松市教育委員会 香川縣市町教育委員会連絡協議会 香川県小学校長会  
香川県中学校長会 香川県小中学校教頭会 香川県PTA連絡協議会  
全国公立小中学校事務職員研究会 「かがわ教育の日」実行委員会(協賛)

## 6 参加者

公立小・中・特別支援学校教職員 教育委員会事務局職員 教育関係者等

## 7 期日

令和6年8月22日(木)～令和6年8月23日(金)

## 8 日程

	10:00	10:30	11:15	12:15	13:15	13:30	16:30
8月22日 (1日目)		受付	開会式	文部科学省 行政説明	昼食 会場移動	受付	第1分科会(愛媛県) 第2分科会(徳島県)
	9:00	9:30		12:30	13:30	14:15	14:55 15:10
8月23日 (2日目)	受付	第3分科会(高知県) 第4分科会(香川県)		昼食 会場移動	四事研研究部 活動報告	分科会 報告	閉会式 引継式

## 9 研究主題等及び会場

区 分	研 究 主 題 等	会 場
全 体 会	開会式 分科会報告 閉会式・引継式 文部科学省行政説明 四事研研究部活動報告	レクザムホール 小ホール 高松市玉藻町9番10号 TEL087-823-3131
第1分科会 愛媛県担当	ひらめき・きらめき 発展する新時代の事務職員になろう！ －自由な発想で新たな学校事務を創生する－	レクザムホール 多目的大会議室
第2分科会 徳島県担当	「協創」、「学校事務の機能強化」、そして「事務職員の人材育成」へ －育成指標から読み取る成長への深化と主体的な学びをめざして－	レクザムホール 小ホール
第3分科会 高知県担当	学校事務で <sup>ひら</sup> 拓く －#企画系事務職員の成長 #リフレクションとともに－	レクザムホール 多目的大会議室
第4分科会 香川県担当	ユーティリティプレイヤーへの挑戦はまだまだ続く －ゆるぎたるぎで一歩ずつ 継続的改善を－	レクザムホール 小ホール

## 10 文部科学省行政説明

文部科学省担当官による行政説明

## 11 資料代

3,500円

## 12 申込方法

「大会参加申込みのご案内」および大会ホームページをご覧ください。  
大会ホームページ <https://www.kagawa-edu.jp/kascjim01/group/yonjiken25.kagawa-jim>  
申込受付期間 令和6年5月20日（月）～令和6年6月14日（金）

**第1分科会** ひらめき・きらめき 発展する新時代の事務職員になろう！  
**愛媛県担当** — 自由な発想で新たな学校事務を創生する —

### 1 研究テーマ設定の理由

西予市事務職員部では個々の資質・能力の向上や創造力、機能的な組織運営やリソースマネジメントが重要であると考え研究を進めています。自由な発想で人材育成や業務改善に取り組むことで学校事務職員が学校の中で専門性を発揮し、多様性の時代に応える新たな学校事務を創生することができると考え、本テーマを設定しました。

### 2 提案発表の骨子

西予市では、これまで推進してきた「自ら前進できる人財・チーム学校に貢献できる人財の育成」の研究を引き継ぎ、新たな学校事務を創生するために独自の視点で「教職員向けの事務研修会」「業務担当者会」「事務処理に関する動画作成」などの実践研究に取り組みました。その成果を踏まえて、私たちが目指す新たな学校事務職員像について提案発表をします。

### 3 分科会運営の形態

プレゼンテーションによる実践例を交えた提案発表、グループワーク

### 4 分科会討議の柱

- (1) 人材育成について
- (2) 新しい時代に求められる事務職員像について
- (3) 学校事務組織の主体的な取組やチャレンジについて

### 5 参加者へのお願い

主体的な行動につなげるために各地域の実践例を共有したいので、積極的な意見交換をお願いします。

**第2分科会** 「協創」、「学校事務の機能強化」、そして「事務職員の人材育成」へ  
**徳島県担当** — 育成指標から読み取る成長への深化と主体的な学びをめざして —

### 1 研究テーマ設定の理由

令和5年4月に事務職員版の「育成指標」が策定され、職責や経験、適正に応じて身に付けるべき資質・能力が明確になる一方で、各キャリアステージに対応した能力の育成や向上を図るには、今後どう育つべきかの新たな研修体系の構築が喫緊の課題となりました。徳事研でも、「学校事務グランドデザイン21 Ver.4」を新たに策定し、中でも「人材育成」が今後最も重要になると考え、本テーマを設定しました。

### 2 提案発表の骨子

今後重要になってくる事務職員の研修体系を具体的に考察するとともに、「育成指標」で求められている資質・能力の発達目標を「積み残す」ことなく達成し、成長し続けられるようにしていくにはどうあるべきかを参加者の皆様と一緒に深められたらと思います。

### 3 分科会運営の形態

プレゼンテーションによる提案発表、討議の柱にしたがった研究協議及びグループ討議

### 4 分科会討議の柱

- (1) 「学校事務グランドデザイン21 Ver.4」で何を目指しているのか
- (2) 事務職員版「育成指標」を今後どのように活用していくか

### 5 参加者へのお願い

次世代のリーダー育成や主体性を高めるための方策等について、活発な意見交流をお願いします。

**第3分科会** 学校事務で拓く  
**高知県担当** - #企画系事務職員の成長 #リフレクションとともに -

### 1 研究テーマ設定の理由

時代の変化とともに、学校事務職員に求められる役割や能力も変化しています。学校事務職員が多様性の時代に応える企画系事務職員として成長していくためには、これまでの研究を継承しながら、実践を振り返り、共有することが必要です。それぞれが、活躍できる環境づくりに貢献できる分科会にしたいと考え、テーマを設定しました。

### 2 提案発表の骨子

令和3年度から令和6年度までの4年間を見据えた研究中期計画を作成し、学校事務職員として果たすべき役割を定着させる研究に取り組んできました。その「評価・検証」として、これまで提案してきた「四つの視点」を通して、いかに企画系事務職員としての実践に繋げられるか、そしてその実践を振り返り、共有して、どのような役割を果たしていくのか提案します。

### 3 分科会運営の形態

プレゼンテーションによる提案発表、グループワーク

### 4 分科会討議の柱

- (1) 各自の実践を振り返り、共有して学校事務には何ができるのかを考える
- (2) 資質を高めていく実践共有とは何なのか、学校事務・共同学校事務室のこれからの姿を探る

### 5 参加者へのお願い

グループに分かれて協議を行います。参加者の皆様には活発な協議をお願いします。

**第4分科会** ユーティリティプレイヤーへの挑戦はまだ続く  
**香川県担当** - ゆるぎたるぎで一步ずつ 継続的改善を -

### 1 研究テーマ設定の理由

私たちは全事研愛媛大会で、主体的に学び続け、教育活動のあらゆる場面で輝ける「ユーティリティプレイヤー」を目指し、提案を行いました。今回、新たに「ゆるぎたるぎ(※)」の精神を取り入れようとしています。日々無理なく、継続的に改善を行うための、重要なヒントになると考え、テーマに設定しました。※讃岐弁で「ゆったりとして満ち足りた様子」、転じて「臨機応変・融通し合うこと」

### 2 提案発表の骨子

これまで、香川県公立小中学校事務職員協会研究部は、様々な課題の解決に向けて研究してきた内容について、「まず自らが実践する」ことを大事にしてきました。今回はこれまでの実践で得られた成果をもとに、特定の課題に限定することなく、継続的改善を実践していくための方策について発表します。

### 3 分科会運営の形態

プレゼンテーションによる提案発表、グループワーク

### 4 分科会討議の柱

- (1) 行動が伴う集団 (DoTank) とは
- (2) 「ゆるぎたるぎ」で実施する継続的改善について

### 5 参加者へのお願い

グループワーク等での積極的な意見交流をお願いします。

会場案内図

